

児童生徒による投票の対象となる校名候補（50音順）と応募理由

紀南木本（きなんきのもと）

三重県立紀南木本高等学校

ちいき した きのもとこうこう きなんこうこう りょうほう こうめい のこ  
地域から親しまれている木本高校と紀南高校の両方の校名を残し、これまでの両校の歴史  
でんとう ひ つ がっこう  
や伝統を引き継ぎながら、よりよい学校をつくってほしいという願いを込めた。

熊南（くまなん）

三重県立熊南高等学校

くまのし くまの みなみむろぐん なんぐん こ おお かよ がっこう  
熊野市（熊野）と南牟婁郡（南郡）の子どもたちの多くが通う学校であることから、2つの地域  
かしらもじ  
の頭文字をとった。

熊野／くまの（くまの）

三重県立熊野高等学校／三重県立くまの高等学校

せかいいさん くまのこどう くまのなだ れきし しぜん くまの した ほこ も  
世界遺産の熊野古道や熊野灘など、素晴らしい歴史と自然がある「熊野」に親しみと誇りを持つ  
ねが こ  
てほしいという願いを込めた。

熊野青藍（くまのせいらん）

三重県立熊野青藍高等学校

あお あい い あい あお あお うみ めん まな や かがや せいしゅん  
「青は藍より出でて藍より青し」のように、青い海に面した学び舎で、輝く「青春」を送り、  
こきょう ほこ くまの うみ ひろ おお せいねん せいちょう  
故郷の誇りである熊野の海よりも広く大きな「青年」に成長してほしいという願いを込めた。

熊野灘（くまのなだ）

三重県立熊野灘高等学校

くまのなだ めん りょうこうしゃ なみ おだ はげ たいへいよう ひろ  
熊野灘に面している両校舎において、波が穏やかなときも激しいときも、太平洋のように広  
おお こころ きぼう おお は ねが こ  
く大きな心を持ち、希望をもって大きく羽ばたいてほしいという願いを込めた。

七里御浜（しちりみはま）

三重県立七里御浜高等学校

くまのし みはまちょう きほうちょう かいがん りょうこうしゃ かん は ひろ  
熊野市、御浜町、紀宝町にまたがる海岸は、両校舎のつながりを感じさせる。果てしなく広  
ゆうだい けしき のぞ ち みらい きぼう いた ねが こ  
がる雄大な景色を臨むこの地で、未来に希望を抱いてほしいという願いを込めた。

（裏面に続く）

## 蒼海（そうかい）

三重県立蒼海高等学校

「蒼海」は熊野灘の大海原を表し、「蒼」は山の木々が勢いよく伸びていく様子も表している。響きもさわやかで、これからの子どもたちの未来にふさわしいと考えた。

## 東紀州（ひがしきしゅう）

三重県立東紀州高等学校

めざす学校像にある「美し国三重・東紀州の人づくり」を校名に掲げ、両校舎が一体となって、地域に親しまれ愛される学校となってほしいという願いを込めた。

## 三重熊野／みえ熊野（みえくまの）

三重県立三重熊野高等学校／三重県立みえ熊野高等学校

地域全体を表す「熊野」に、県外にある同名の高校と区別するために「三重（みえ）」をつけ、地域が一体となって子どもたちを育ててほしいという願いを込めた。

## 三重南（みえみなみ）

三重県立三重南高等学校

三重県で最も南に位置する高校で、「南」から連想される温かい心と光り輝く力を育くまれた子どもたちが、地元はもちろん全国や世界でも活躍してほしいという願いを込めた。

## 南牟婁（みなみむろ）

三重県立南牟婁高等学校

南牟婁郡は、かつては御浜町、紀宝町だけでなく、熊野市の全域も含んでいた。「南牟婁」という美しい地名をつけることで、地域に根差した学校となってほしいという願いを込めた。

※ 応募理由は、校名案の応募者が記載したものを、校名選定委員会事務局で要約したものです。

※ 漢字表記とひらがな表記がある校名候補については、投票時には同一の校名案として扱い、第3回校名選定委員会において表記を定めます。